

第2学年3組 国語科学習指導案

第2校時 場所 2年3組教室 指導者 溝上 剛道

1 単元名 絵本のプレゼントにそえるメッセージカードを書こう「スイミー」

物語を読むという行為は、本来一人で行うものである。しかし、私たちはおもしろい物語に出会うと、誰かに話したくなる。同じ物語を読んだ人と出会えば、自然と語り合いたくなる。異なる他者がいることで、物語を読む楽しさは広がっていくのである。

子どもたちは前単元までで、お話のおもしろかったところについて書いたり話し合ったりする学習を経験してきている。しかし、これまでは「お話を読んで、おもしろかったところを書きましょう」など教師が方向づけをしていたため、多くの子どもが同じような感想となっていた。そのような形式のコピーではなく、登場人物の会話や行動に着目しながら、作品に対する自分なりの思いをもてるようになってほしいと願う。

そこで本単元では、「絵本のプレゼントに添えるメッセージカードを書く」という言語活動を設定する。具体的には、作品から感じたことを伝えたい相手を選び、本文を視写してプレゼントする絵本を作るとともに、そこに添えるメッセージカードを書く活動に取り組みせる。その活動の中で、一人一人が「わたしの問い」をもち、問いの解決に向けて他者と対話する中で、言葉による見方・考え方を働かせ、自分の読みを創り上げていけるような学習を展開していく。

2 単元について

- (1) 本単元では、「スイミー」を学習材として取り上げる。場面の様子に着目しながら登場人物の行動を具体的に想像し、感想を伝える言葉を使って思ったことを表す力の育成をねらう。
本学習材は、中心人物スイミーが、大きな魚に襲われて兄弟を失い、一人ぼっちになるものの、素晴らしい海の生き物との出会いで元気を取り戻し、新しい仲間と共に協力して大きな魚を追いついていくという物語である。中心人物スイミーの言葉や行動からは、困難を乗り越える知恵と勇気、新たな出会いの素晴らしさ、仲間と協力することの大切さなどを感じることができる。そうした中心人物の会話や行動を具体的に想像するとともに、作品に対する思いを一人一人の子どもがもち、自分なりの言葉で表現できるようにしていきたい。
- (2) 「ふきのとう」を学習材として取り上げた前単元では、会話や行動についての叙述に着目し、登場人物が何をどのようにしたのかを具体的に想像する学習に取り組んだ。本単元では、登場人物の会話や行動に着目して「だれが、どうして、どうなったか」それを基に作品に対する感想をもつ学習を展開する。それらの学習が、「わたしはおねえさん」を学習材とする単元において、登場人物の会話や行動に着目し、自分と比べて感想をもつ学習へとつながっていく。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)
 - ① 全員が、これまでに読んだ本の中からおもしろいと思った本を選ぶことができる。また、「おもしろいところ」や「心に残ったこと」を書くという課題においても、どこがおもしろかったかについて全員が書くことができる。
 - ② 物語について、自ら複数の場面の会話や行動を比べて感想をもち、感想語彙を駆使して自分の思ったことを表現できる子どもはまだ少ない。
- (4) 指導にあたっての留意点は、次の通りである。
 - ① 第一次では、「絵本のプレゼントに添えるメッセージカードを書く」という言語活動を設定し、単元の見通しをもたせる。また、担任が2年3組の子どもたちへレオ=レオニの絵本「フレデリック」をプレゼントし、読み聞かせをした後、「2年3組のみんなへ」という形でメッ

メッセージカードを贈る形でモデル文を提示する。そのモデルを基に「スイミーの会話や行動について思ったこととそのわけを、他の会話や行動と比べて、絵本のプレゼントに添えるメッセージカードを書く。」という単元の学習課題を設定し、学習の見通しをもてるようにする。

- ② 第二次では、単元の学習課題を基に「わたしの問い」を立てさせ、一人一人がその問いの解決に向けて言語活動に取り組んでいけるようにする。

初めからメッセージを書いていくことが難しい子どもには、下書きの欄外に手引きをつけたり、図化したりしたワークシートを用意しておき、自分で必要に応じて使えるようにしておく。その他、対話の媒介物となるように、物語の展開をまとめたり、互いの考えを比べたりできるようなワークシートも準備しておく。

- ③ 本時の学習では、前時までで、お話を読んで「ゆうじょうものがたりだなあとおもった」という感想をもっているものの、その感想を「どうして、どうなった」とどのようにつなげてメッセージを書けばいいかで悩んでいる子どもの問いを取り上げる。その問いに寄り添って話し合うことを通して、「会話や行動をつなげる」という思考操作を明示する。
- ④ 第三次では、各自が書いたメッセージカードを読み合い、身に付けた力を確かめ合うとともに、パフォーマンス課題として「どうする？ティリー」に添えるメッセージカードを書かせ、単元を通して学んだことをどれだけ生かすことができるかを見取っていく。

3 単元の目標

- (1) 感想を表す語句の量を増やし、感想を伝える文章の中で使うことができる。
- (2) 登場人物の会話や行動を手がかりとして主な出来事や結末などを読み取り、「だれが、どうして、どうなったか」を捉えることができる。
- (3) 「スイミー」やレオ＝レオニの作品群の読書を楽しむとともに、それらの作品を読んで感じたことを伝え合うために、自ら問いをもって作品を読もうとしている。

4 指導計画（10時間取り扱い）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1 単元の見通しをもつ。	○ モデル文を基に、身に付けるべき力や思考操作を共有した上で、単元のゴールと学習課題を設定する。	2
2 「わたしの問い」を立て、その解決に向けて絵本のプレゼントに添えるメッセージカードを書く。	○ 学習課題を基に「わたしの問い」を立てさせ、その解決に向けてメッセージカードを書く。 ○ 一人で解決できないときには、グループや全体で話し合えるようにする。また、話し合ったことを基に、身に付けるべき力や思考操作をより具体的に明示していく。 ○ 「会話や行動」「思ったこと」を観点として自分のメッセージを見直させたり、友達と話し合わせたりすることで、よりよいメッセージにするための書き直す視点をもたせる。	5 本時 <u>5</u> 5
3 書いたメッセージカードを読み合い、単元の振り返りをする。	○ 各自が書いたメッセージカードを読み合わせて身に付けた力を振り返らせていく。また、パフォーマンス課題に取り組ませて、単元を通して学んだことをどれだけ生かすことができるかを見取っていく。	3

5 本時の学習

(1) 目標

感想と「だれが、どうして、どうなったか」のつながりについて検討することを通して、言葉の意味に着目して叙述を捉え直し、メッセージを見直したり書き換えたりすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	○ この前は、場面と場面のつながりを考えて、「だれが、どうして、どうなったか」を言えるようになったな。
10	2 「ゆうじょうものがたり」につながる「だれが、どうして、どうなったか」について話し合う。	○ ぼくは、お話を読んで「ゆうじょうものがたりだなあ」と思ったけど、「大きな魚をおい出した」とどうつながるのかわからないな。 ○ 大きな魚をおい出したのは、マグロに食べられてしまった兄弟たちのかたきをうつためだから、友情は関係ないんじゃない。 ○ かたきうちの気もちもあつたかもしれないけど、スイミーはきっと新しい仲間を見つけて、その仲間を助けたいっていう気もちでだったんじゃないかな。 ○ だったら、四の場面で新しい仲間を見つけたところやその仲間のためにうんと考えたところが友情につながるね。
25	3 自分の感想につながる「だれが、どうして、どうなったか」について話し合ったり、メッセージを書きかえたりする。	○ わたしがつたえたい「スイミーはゆうきがあるさかな」だということも、四の場面と五の場面がつながるな。だって、兄弟たちがまぐろに食べられてとても怖かったのに、新しい仲間のために勇気を出して大きな魚をおい出そうとしたからね。 ○ それなら、二の場面もつながるんじゃない。怖くなったのは、マグロに食べられた場面でしょ。 ○ ぼくは「せいぎかんがつよい」と「あきらめない」で迷っている。どちらがスイミーにぴったりだろう。 ○ 「せいぎかん」は、魚をおい出したところにつながると思うよ。マグロが悪で、スイミーが正義って考えるといいんじゃないかな。 ○ さっきの話し合いとつなげて考えると、悪を倒してかたきをうつというよりも、仲間のためにやっているから、「仲間おもしろい」とかがいいかもしれない。
5	4 本時の学習を振り返る。	○ 今日は、感想の言葉と「だれが、どうして、どうなったか」のつながりについて考えたな。どんな感想かによって、どの会話や行動をつなげたらいかがが変わってくるのがわかったぞ。次は、それをつなげてメッセージを完成させよう。



自分の感想をどのような言葉で表現するかに意識が向かい始めた子どもたち。本時では、その感想語彙と「だれが、どうして、どうなったか」とのつながりに悩みをもつ子どもの問いを取り上げ、言葉の意味に着目して会話や行動を捉え直す視点を共有します。そのような言葉による見方・考え方を働かせて自分のメッセージを見直していけるようにします。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

- 単元の学習課題を確認するとともに、「スイミー」の「だれが、どうして、どうなったか」を端的に言わせて、物語の全体像を想起させる。
- お話を読んで「ゆうじょうものがたりだなあ」という感想はもっているものの、その感想と自分が着目した叙述のつながりで悩んでいる子どもの問いを取り上げる。

大きな魚をおい出したことと、「ゆうじょうものがたり」はつながるのだろうか。

- 「友情」という言葉の意味について確かめることで、その意味に着目して結末までのスイミーの会話や行動を捉え直し、意味づけをできるようにする。
- 「ゆうじょうものがたり」と書いた短冊を、拡大した全文プリント上で動かしたり、どの会話や行動とつながるかを検討させながら、それらの叙述を線でつなげていくことで、自分のメッセージの感想と「だれが、どうして、どうなったか」のつながりを検討する際に必要な「会話や行動をつなげる」という思考操作を明示する。

自分のメッセージのかんそうと「だれが、どうして、どうなった」はつながっているだろうか。

- 自分の感想を表す言葉を付箋紙に書き出させ、教科書や全文プリント上で自分の感想とどの叙述がつながるかについて、付箋紙を動かしたり、本文に書きこんだりしながら感想と「だれが、どうして、どうなったか」のつながりを検討できるようにする。
- 時間的な見通しをもたせ、途中で適宜今の学びの状況を振り返らせながら、課題の解決に向けて、今何に取り組むべきかを考えさせる。
- それぞれで言語活動に取り組ませながら、必要に応じてペアやグループで話し合ってもよいことを共通理解しておく。
- 語彙の検討はしているものの、話し合いが叙述から離れてしまっているペアやグループには、全文プリントを使いながら話し合うように促す。
- グループでも解決できないことがあった場合には、その内容に応じて個人間やグループ間で関わらせたり、全体に相談したりできるように促す。
- 国語日記を書く際には、今日の授業で何を話し合ったり考えたりしたか、その中で何がわかったか、あるいは何がまだできていないかを振り返らせていく。それを基に、次時では何をすべきか、自分自身で見通しをもてるようにする。

【教材・教具】

- 付箋紙
- 全文プリント
- ワークシート
- 感想語彙の短冊

【評価】

自分のメッセージの感想につながるように、会話や行動、出来事などをつなげて「だれが、どうして、どうなったか」を書いたり、見直したりすることができる。